令和元年度　地域懇談会　報告書

地域名	松葉町地域ふるさと協議会
日　時	令和元年９月２６日（木）午前１０時００分～午前１１時２５分
場　所	松葉町地域ふるさと協議会事務所
参加者	ふるさと協議会役員等　　：１０名 地域づくり推進部長　　：　１名 松葉近隣センター所長　　：　１名 社会福祉協議会職員　　：　１名 地域支援課職員　　：　５名 地域づくりコーディネーター：　３名　　合計：２２名
次　第	別紙のとおり
意見交換	ふるさと協議会役員 ・担い手不足は当協議会でも大きな問題である。今年の役員もやっと決めたが，来年の役員も決めなければならない時期だが，あてがない。一本釣りを行ってきていたが行き詰っており，人が集まらない。 ・（町会長で構成されている）自治代表部会へ，ふるさと協議会は町会が支えているので，町会で責任を持って役員を出してもらいたいとお願いしているが，そこから「ふるさと協議会と町会の関係は何なのか？」「町会から役員が出なければ，ふるさと協議会なんて辞めてしまえばよい」という声も出かねない。役員のなり手不足は大きな問題であり，当協議会でも考えている最中である。 ふるさと協議会役員 ・一町会一役員を出してもらいたいと言われ，１８町会あれば１８人の役員が出なければならないところ４名は出たが，あとの町会は出さなかった。私は役員が出せないところは，今期か来期かの役員が強制的に就任すればよいと思っており，急進派の意見として反発されている。 ふるさと協議会役員 ・自治代表部会としては，一町会一役員ということは合意を得られたが，いざ町会へ持ち帰り役員を探してみると，どうしても適当な人間が見つからない。 ・今年度は新たに４名の方を推薦して出してもらい，継続の方が４

	名で計８町会から出してもらった。したがって９町会は推薦を出してもらっていない。私の町会も私が出るだけで精一杯であり，それ以外の人を出すのはとても無理であり，同じ状況の町会があるのは事実である。当協議会の構成は，６８０世帯の町会があれば，５０世帯ほどの町会もあり，他の協議会と異なりかなりばらつきがある。 ふるさと協議会役員 ・負担を軽くするということで，実行委員会方式をとって，うまく回っている地域はあるのか。また，どのようなやり方をとっているのかを事例として教えて欲しい。 ふるさと協議会役員 ・役員の選任方法，役員会のメンバー構成，事業の運営の 3 点について，会則などを調べれば分かるかもしれないが，市で分かれば教えて欲しい。特に，光ヶ丘団地，豊四季台などの似ている地域を知りたい。 柏市職員 ・実行委員会方式ではないが，サポーター制度として南部の地域ではよく聞く。文化祭だけをお手伝いしてくれるサポーターを募り，ピンポイントでお願いをする。そうすると参加する方にも負担感が少なく，広がりやすい。という話を聞いている。 ふるさと協議会役員 ・松葉町地域でも，チャリティゴルフは実行委員会形式でやっている。ふるさと協議会で絡んでいたのは事務局長だけであった。実行委員会の方々は個人的なネットワークで集まっており，集め方については，疑問なところもあるが，実行委員会方式で成功している例は，自分達の身の回りにもあるということ。 ・個人的に思うのは，根幹はやってくれるという気持ちを持ってくれている人をどう見つけ出すかに尽きると思う。ふるさと協議会を知っている人も少ない。その中で潜在的にやってもよいという人達をどのように見つけ出すか。 ・イベントの開催もひとつの手だが，１ショットのイベントでは継続性がない。何度も接触を図り，口説き落とす。何度も接触できるよ

	うなものがないとイベントをしても意味がない。 柏市職員 ・参考になるか分からないが，田中地域は運営委員会を作っている。各町会から何人か出してもらうが，町会の世帯数ごとに人数配分を行ない，出してもらっている。全部で５０名ほどになり，その中で文化部や体育部などに所属し，その方々を中心に運営する。「運営委員は大変だが，とても楽しいから続けている。」一方で「新住民はなかなか引き受けてくれず，同じ人がずっとやっている。」と，新旧交代が出来ないのが悩みであるとのこと。 ・新田原地域は，去年から事務局員を置くことになった。１名はふるさと協議会の業務自体が始めての方で，町会の自主防災をやっていたところをふるさと協議会の会長に見初められてふるさと協議会に入ったとのこと。「初めてふるさと協議会を知ったが，こんなに地域のために活動していることが分かり，感銘を受け，これからもっと頑張りたい」とのこと。 ・中新宿町会は役員が２０名ほどいるが，毎年公募をしている。チラシを撒くのだが，「皆さんの人生の選択肢の中に地域のお手伝いをするということを作ってみませんか？」というチラシを撒いているとのこと。毎年３～４名ほどから手が挙がるとのこと。 ・町会長がふるさと協議会役員になるという事例が多く，役員自体はすぐに決まるが一方では負担が大きいという側面もある。 ふるさと協議会役員 ・田中地域の運営委員とは，ふるさと協議会の中にあるのか。役員とは別なのか。町会長が役員をやるのは最近の傾向なのか 柏市職員 ・田中地域では恐らくそうである。 柏市職員 ・町会長が役員をやるのはふるさと協議会の規約を見ると大体そうである。逆に松葉町地域のやり方が珍しかったこともあり，事務局を置いてきているところが増えている。

	ふるさと協議会役員 ・事務局の選任をどうするかが問題となっている。同時期に同じくらいの方が入ってきて，ずっと一緒にやってきた。若い方は入ってこない。高齢化にもなっている。今の若い方は仕事があるから無理だというが，昔は皆，仕事をやりながらやってきた。 ふるさと協議会役員 ・確か，武蔵小杉だと思うが，ＮＰＯ法人を作ってそこが専門的に町づくりを行うというのを聞いたことがある。そういうやり方もひとつである。最悪の形態としてあるかもしれないが，町会が主体となって共通的にふるさと協議会の名の下で行うのがよい。町会がふるさと協議会をどこまで真剣に考えるかが鍵である。 ふるさと協議会役員 ・住民が参加してのふるさと協議会である。その場その場ではよいかもしれないが，本当にそれがよいのかという気がする。 ふるさと協議会役員 ・事務局に仕事が集中し，ものすごく大変になっているため，各担当である程度はやっていこうということになってきているが，事務局が変わると何にも分からなくなってしまう。 ふるさと協議会役員 ・ふるさと協議会の運営は町会が主体であり，町会から推薦してもらっているが，町会間の温度差をどのように埋めていくかが課題。まずはふるさと協議会を知ってもらうということが大事だと思う。 柏市職員 ・南部地域で担い手不足解消を目的に，若い方と会議を行った。意外とふるさと協議会の方がやってくれていたことがわかったり，地域に入ってくれた方もいたりしたため，上手にお互いを知る場を作ると，若い方々の見方が変わるかもしれない。 ふるさと協議会役員 ・ＰＴＡ自体が今，難しい。ＰＴＡに入らないと言う人さえいる中で，我々が言っても難しい。学校が強制的に言えばやるかもしれな

	いが，我々が言ったところでＰＴＡは動かない。本当はＰＴＡを巻き込んでやるのがよい。 柏市職員 ・南部地域のＰＴＡに向けてアンケート調査を実施したが，「スポット的に手伝いたい」という方は多かった。 ふるさと協議会役員 ・個々にあたるとそうなのかもしれないが，ＰＴＡという組織自体に働きかけるとなると難しい。 ふるさと協議会役員 ・もっとふるさと協議会と学校の話し合いの場を増やしていかなければいけない。たとえば防災訓練などは良い例である。学校を使わせてもらうので，学校とふるさと協議会がどのような関係でどのようにやっていくかをきちんと整理していかなければいけない。訓練そのものがマンネリ化してしまうその中に子供達，ＰＴＡがいると違った意味で訓練も変わってくると思う。そのような話し合いの場が不足しているのではないかと思う。 柏市職員 ・行政も縦割りと言うが，地域も縦割り，ＰＴＡはＰＴＡのことしか知らない。お互いがどのような活動をしているのかをもっと知る機会があってもよいのかもしれない。 ふるさと協議会役員 ・我々も高齢化し，どのように若い方を引き込むか，高齢者だけでは解決しないが，若い方を引き込むのは難しい。 柏市職員 ・南部地域で実施したＰＴＡに向けたアンケートでは，ふるさと協議会を知っている方は４割ほどしかいなかった。先ほどの若い方との会議では，「ふるさと協議会がこんなこともやってくれている」ということがわかったと仰っていたことからも，地域支援課で実施している若い方との会議などを利用して，話し合いの場を作ってみてはどうか。

	ふるさと協議会役員 ・行政としてふるさと協議会がこんなことをやっているということを市民に投げかけているのか。 柏市職員 ・昨年，広報かしわの一面に掲載した。 柏市職員 ・今年は初めて柏まつりでうちわを配ったり，今度の手賀沼エコマラソンでもふるさと協議会の名の入った絆創膏を配る予定であり，啓発活動に力を入れた。 ふるさと協議会役員 ・ふるさと協議会はイベントやるところだと思われている。そのようなイベントに隠れて，地域に貢献していることがあまり知られていない。もっとそのようなことを，我々も柏市もＰＲしていかないといけないのではないか。 ふるさと協議会役員 ・確かにふるさと協議会は行事を行う団体と思っている方が多いが，実際には社協関係の助け合い，高齢化，子供の問題，ゴミ関係などの活動にも取り組んでおり，行事をやっていることしか知らない方は，「ふるさと協議会の意義はあるのか」「ふるさと協議会なんて要らない」という御意見を持っていることもある。 ふるさと協議会役員 ・ふるさと協議会の役員も１年間だからやっており，喜んでやっている人はよいが，私は会議に出ることも負担である。 柏市職員 ・「好きなことを学ぶということから入る」というやり方もあるのではないか。例えば，講座のようなものを開いて，先生を呼んで学び，そこで学んだ方がグループを作って活動をするやり方がある。それは好きで学んでワンポイントのテーマでやっていく。ＮＰＯなどと関わるのかもしれないが，講座から育てていくというやり方もある。そこと地縁組織の町会やふるさと協議会が緩やかに連携してい

	くやり方もありえる。 ・趣味の講座は人が集まりやすいが，それを地域に役立つものに近づけたテーマで募集をするのは難しいかもしれない。例えば，お祭りのやり方の講座などをやり，そこに興味を持った人が集まり，「お祭りってこうやるんだ」ということがわかったところでグループになり，実行委員会になり，その団体がふるさと協議会と連携する。根幹はふるさと協議会が地縁の問題として押さえ，様々な講座から生まれた市民のグループと連携していくことが可能かも知れない。 ふるさと協議会役員 ・確かに講座から集めていくと言うやり方もあるかもしれない。今は委員会でやっている。「何故こんなにやらなければならないのか」という声もきく，自分の好きなことだけを出来れば負担感もなくなり良いとは思うが，どのように切り替えていくかが問題である。 ・事務局に報酬ということも，時間を指定して拘束するのであれば本来は手当てを出さなければならないかとも思う。 ふるさと協議会役員 ・行政としてパート職員を配置するなどの検討も必要だとは思うが，市と地域の架け橋になるような半民半官のような形で人材の確保を検討してもらいたい。 柏市職員 ・日常に地域と繋がる必要はあると思っている。地域には地区担当者がおり，職員が役員会に出席させてもらっている。地域づくりコーディネーターは非正規職員であるが，民間での視点をもって各地域でつながりを持って情報収集，情報提供，助言など活動をしている。また，社協の担当者もおり，特に福祉の場面で繋がりを持ち，同様に助言等を行なっている。更に近隣センターの所長が一番の地域と行政のパイプ役として動いているので，いくつかの繋がりは持っている。今回お話をお聞きすることが出来たので，これからはより密な情報提供や相談に乗ることなどができるかと思う。 ・今，所から講座を設けてはという話があったが，どうすれば今の松葉町地域のコーディネート不足を切り替えていけるかという具体的な相談にも乗れるかと思う。

	ふるさと協議会役員 ・松葉座談会のテーマ探しに苦慮している。今回のお話が参考になるが，実際に懇談会をやる能力がないので助けて欲しい。 ふるさと協議会役員 ・社協のボランティアの登録がされていると思うが，松葉町地域にも地域関係のボランティアに登録されている人もいる。そのような方と接触できればスムーズだと思う。市社協ではなかなかうまく出来ないのであれば，市のほうでマッチングチャンネルを作ってもらえないか。 柏市職員 ・持ち帰らせていただく。 ふるさと協議会役員 ・今回の懇談会の内容を，テーマに絞って市とふるさと協議会とで具体的に検討し，事例や検討結果を教えて欲しい。 柏市職員 ・２年前に行った地域懇談会であった意見を，昨年検討し，担い手不足解決に向けた６つのキーワードを生み出した。今年はそれぞれのふるさと協議会で，「この１～６のキーワードについて取り組んでみませんか？」と投げかけをした。市としてもやれることをやっていこうと「ふるさと協議会を知ってもらう」ということにターゲットを絞って，今年動き始めた。これをもう少し突き詰めてふるさと協議会を知ってもらうにはどうすればよいか，楽しくやるにはどうすればよいかなど，もう少し詰めてやっていくというやり方もある。 ・また，各ふるさと協議会によって事情が違うので，松葉町地域としてどうやってふるさと協議会を知ってもらうかを市も入って話をし，具体的なものを作り出して行動していくということもあるかと思う。 ふるさと協議会役員 ・K-net の市の役割は何か。登録するだけなのか。

	柏市職員 ・K-net は柏市独自のものである。古くは阪神淡路大震災の時に，地域で支援や安否確認をしてほしい方に手を挙げてもらい，地域とマッチングをすることにより，災害弱者を支援し，日常的な見守りを行っていこうということが機能したことから，柏市にも導入された経緯がある。また，今から７～８年前に法律ができ，災害時の要援護者名簿を行政が作らなければならなくなり，災害時には本来は市が安否確認をするのだが，市だけでは難しいことから，名簿を各町会に提供し，各町会で安否確認と見守りをお願いしている。 ふるさと協議会役員 ・私は市から「市は K-net のようなものをやりたくない。本来，向こう３軒両隣の精神の仕組みができていれば必要ないが，それができていないから，市がやっているものである。」ということを聞いて納得した。住民はもっと「本当に何かあったら…」ということに目覚めなければならない。目覚めるためには，市が K-net の仕組みだけを伝えるのではなく，本当に何をしなければならないのかを訴えて，啓蒙をどんどん進めていくことが必要なのではないか。 ふるさと協議会役員 ・毎年町会長が変わる町会などは，町会としてこのような方がいるのだと把握するには，K-net はよいシステムだと思っている。基本的には，向こう三軒両隣が助け合うのが基本だと思う。災害時要支援者という言い方が間違っていて，要支援者かどうかということが重要である。 ふるさと協議会役員 ・隣近所が交流がないということは現実にある。もし何かあったときに隣近所の方がやってくれればよいが，本当にやってくれるのか。 ふるさと協議会役員 ・K-net は被災した時のしくみという位置付けであるが，住民に対して向こう三軒両隣は大事であるというときに，「被災」というのは説明する手段としては大きな動機付けになる。それを日常の生活にも拡げていくことがよいことである。

	・住民が市に期待しすぎているということもある。 ふるさと協議会役員 ・確かに市が何かやってくれるという気持ちはある。間違っているのかもしれないが。 ふるさと協議会役員 ・確かに K-net に対しては，市としても周知をする必要があるのではないか。ただやりなさいというだけではなく，住民に周知することにより，町会もやりやすくなる。
いただいたご意見のまとめ	主に次のような御意見をいただいた。 ・担い手不足が深刻である。今年度から１町会から１人推薦を出してもらうようにしたが，なかなかすべての町会が対応してもらえないと伺った。 ・実行委員会形式の事例を紹介した。また，役員の決め方，構成について事例の紹介を行った。今後もう少し整理をして紹介できればよいと思った。 ・もともと同じ時期に入ってきた人たちでまちづくりを行ってきたが高齢化が深刻になっていると伺った。 ・ふるさと協議会の課題としては，イベンターと思われているのではないか。福祉の面・子育て支援の面の活動があまり知られていない悩みがあると伺った。 ・ＰＴＡや学校・ふるさと協議会の情報交換の機会をもっとあった方がよいのではないかとのご意見があった。 ・担い手不足の解消のひとつとして，講座からのアプローチがあるとのお話があった。 ・社協のボランティア希望者の方々と地域のマッチングを行ってほしいとのご意見があった。⇒宿題 ・担い手不足の６つのキーワードについてもっと具体的な取り組みの方法や内容をもっと具体的に行動指針を出すことが必要ではないかというご意見があった。 ・K-net についての質問があった。K-net の浸透，広がりのためには，単に災害時の要援護者の支援ではなく，地域の日常の見守り，つながり，助け合いなど，本当はそういうところが必要であるということを，市として示していくことが大事であるとのご意見をいただいた。

	・若い人が住める街にしてほしいとのご意見があった。